

ねりま幼保小の架け橋期プログラム



令和6年（2024年）3月

練馬区教育委員会



目次

幼保小の連携・協働による円滑な接続の実践に向けて	1
「生きる力」を育むために必要な資質・能力	2
第1章 子どもたちの育ちと学びをつなぐために	3
○資質・能力を育む	
○幼児期に育まれた資質・能力を小学校教育に生かす	
○1年生はゼロからのスタートではありません	
○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は円滑な接続の手がかり	
○架け橋期の教育の充実に向けて	
○幼保小連携・接続の取組を進めるために	
第2章 架け橋期の子どもの姿と指導のポイント	9
第3章 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から見る実践例	13

本プログラムの作成にあたっては、「練馬区幼保小連携推進協議会」のご協力のもと、幼稚園・保育所・小学校の園長・校長および教員・保育士の皆様に多大なご尽力をいただきました。深く感謝申し上げます。

本プログラムを多くの関係者の皆様にご活用いただき、幼保小の連携・協働のもと、子ども一人一人の特性に応じた指導・援助を行うことや、それぞれのカリキュラム・教育方法の充実・改善に役立てていただくことをお願い申し上げます。

練馬区教育委員会

幼保小の連携・協働による円滑な接続の実践に向けて

区では、平成24年に「練馬区幼保小連携推進協議会」を設置して以来、様々な取組により幼稚園・保育所・小学校の連携を推進してきました。

令和5年9月に、これまでの取組の実績や課題を踏まえて、子どもたちが生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるための重要な時期である、義務教育の開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間に焦点をあて「架け橋期」と称し、「練馬区幼保小連携推進方針」を策定したところです。

新たな推進方針に基づき、幼児教育・保育と小学校教育の関係者が連携・協働のもと、より円滑な接続が実践できるよう、「ねりま幼保小の架け橋期プログラム」を作成しました。

幼保小連携の全体イメージ

練馬区の目指す教育

練馬区教育・子育て大綱 教育分野目標

夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備えた子どもたちの育成

練馬区教育振興基本計画 令和4年度（2022年度）～8年度（2026年度）

幼児期から児童期への変化を乗り越える力を養い、育ちと学びの連続性をつつため、幼稚園・保育所・小学校の連携を強化し、就学前教育から小学校教育への円滑な接続を図ります。

幼保小連携の目的

幼児期の教育・保育の重要性について共通理解を図りながら、関係者の連携・協働のもと、幼稚園・保育所での育ちと学びを小学校の学習につなげ、家庭や地域と連携し、子ども一人一人に質の高い教育を行っていく。

練馬区幼保小連携推進協議会（平成24年5月～）

【幼児教育・保育】

区立・私立幼稚園

練馬こども園・認定こども園

区立・私立保育所・認証保育所

認可外保育所

幼児の生活において豊かな学びの機会を保障し、幼児期の育ちと学びを小学校の学習につなげる

練馬区幼保小連携推進方針

幼保小の関係者の連携・協働のもと、より円滑な接続を実践する

5歳児から小学校1年生（架け橋期）のカリキュラムの実施

ねりま幼保小の架け橋期プログラム

【小中一貫教育】

小学校 中学校

小中一貫教育校

小中学校の連続性のもと9年間の義務教育の質を高め、練馬区が目指す子ども像を実現する

関わり

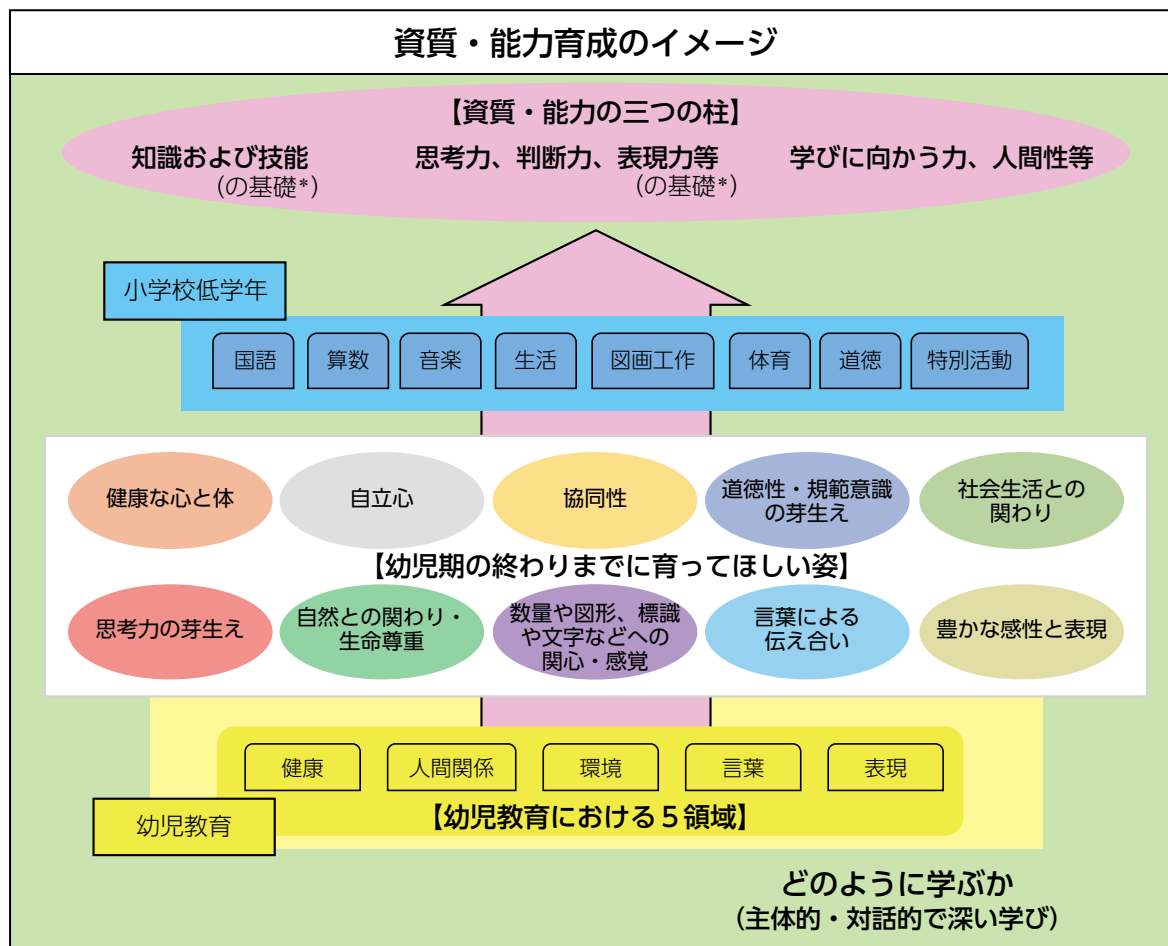
地域

家庭

行政

「生きる力」を育むために必要な資質・能力

子どもたちには自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく「生きる力」が求められています。「生きる力」を育むためには、子どもの発達の段階や特性を踏まえつつ、資質・能力の三つの柱をバランス良く育成することが大切です。



* 幼児教育では基礎を育成

1. 資質・能力の三つの柱

- ・ 資質・能力の三つの柱は、幼児期から高等学校卒業まで一貫して育成を目指すものです。「主体的・対話的で深い学び」により、それぞれの発達段階に応じて、資質・能力を育成します。

2. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児教育における5領域のねらいや内容に基づき、幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、育まれる幼児の具体的な姿であり、主に5歳児後半に見られるようになる姿です。
- ・ 到達目標ではなく、向かっていく方向性を示しており、幼児の成長の状況を確認する手立てとなります。さらに幼稚園・保育所・小学校の教員・保育士が子どもの姿を共有する手がかりにもなります。

3. 幼児教育における5領域

- ・ 幼児期は、生活の中で興味や関心に基づいた直接的・具体的な体験を通して、総合的に資質・能力が育まれます。
- ・ 幼児教育のねらいや内容を、幼児の発達の側面から以下の5つの領域に分類したものです。
- ・ 幼児の発達には様々な側面が絡み合っており、個別に特定の活動と結び付けて指導されるものではありません。

「健康」 心身の健康に関する領域

「人間関係」 人との関わりに関する領域

「環境」 身近な環境との関わりに関する領域

「言葉」 言葉の獲得に関する領域

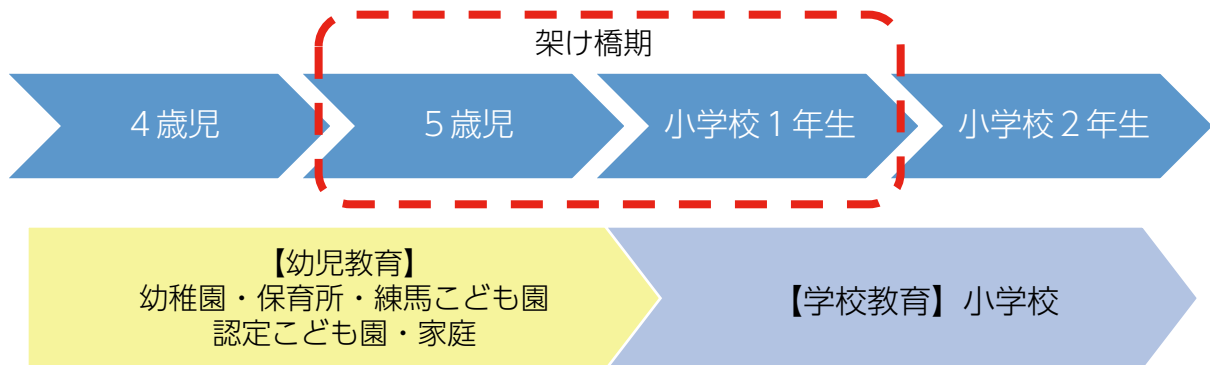
「表現」 感性と表現に関する領域

第 1 章

子どもたちの育ちと学びをつなぐために

架け橋期とは？

生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期である、義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間で「架け橋期」と称します。



資質・能力を育む

円滑な接続を
目指して

平成29年に改訂・改定された、幼稚園教育要領、保育所保育指針および小学校学習指導要領では、育成を目指す（育みたい）資質・能力が、「知識および技能（の基礎）」、「思考力、判断力、表現力等（の基礎）」、「学びに向かう力、人間性等」と示されました。幼稚園・保育所では、5領域におけるねらいおよび内容に基づいた遊びや生活を通して、資質・能力の基礎が育まれます。これは、生涯にわたる学びや生活の基盤となるもので、特に基盤をつくるために重要な5歳児から小学校1年生の架け橋期は、連携・協働を意識し、子どもの理解・関わり方について幼稚園・保育所・小学校の教員・保育士が学び合い、共有することが大切です。

※（育みたい）、（の基礎）は幼稚園教育要領、保育所保育指針より

遊びを中心として主体的に
様々な対象と直接関わりながら
総合的に学ぶ支援を
しているんだね。



幼児期 学びの芽生え

5領域におけるねらいおよび内容に基づく遊びや生活によって総合的に育まれます。
健康 人間関係 環境 言葉 表現

健 人 環 言 表

幼児期の終わり までに育て ほしい姿

児童期

自覚的な学び

各教科等の学習内容を系統的に配列した教育課程に基づいて学びます。小学校入学当初は、幼児期の遊びや生活を通じた学びから各教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら意欲的に学びます。

育成を目指す資質・能力

生きて働く**知識および技能***の習得

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力等*の育成

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性等の涵養

*幼児教育では基礎を育成

乳児期

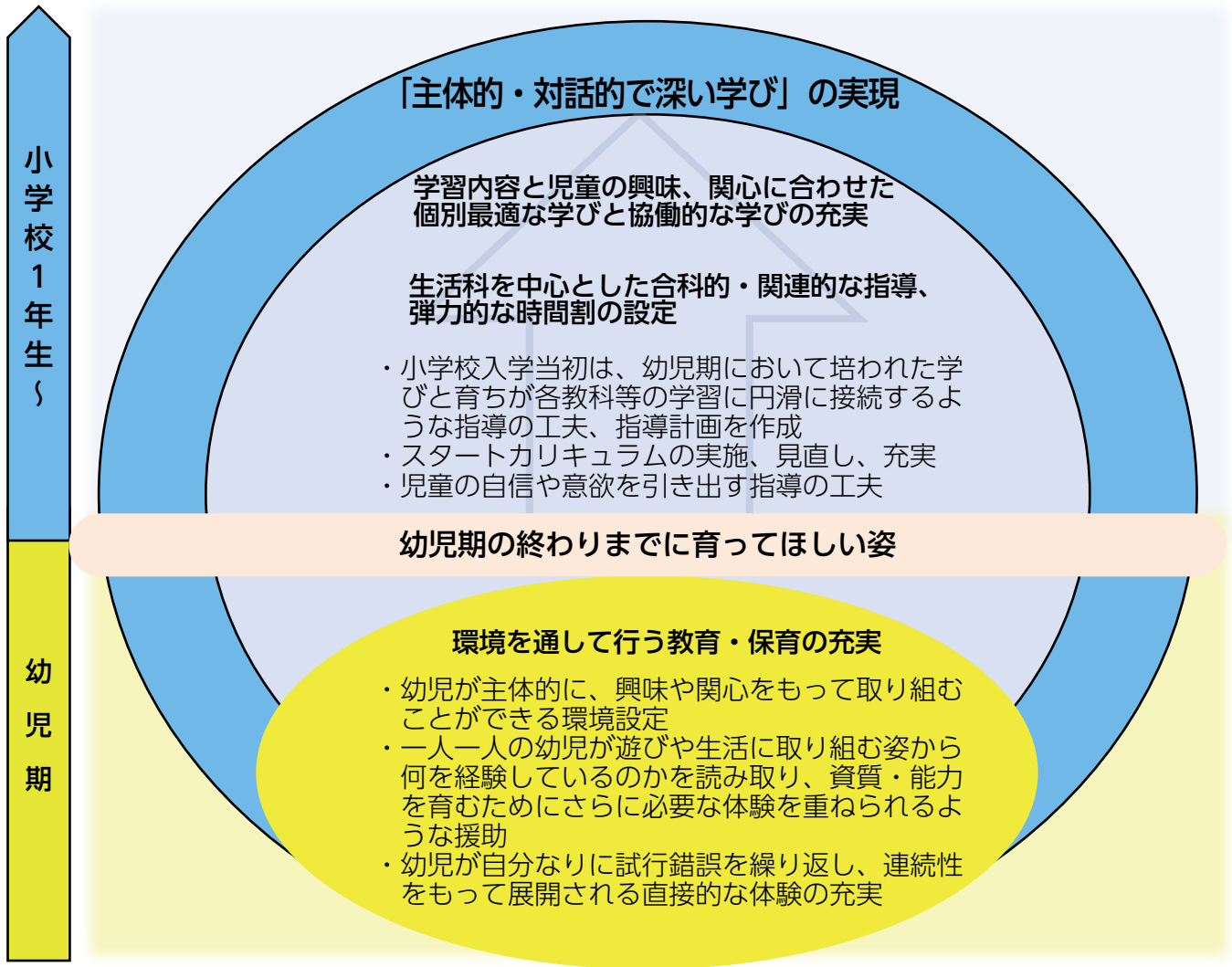
遊びや生活を通して育まれた力を
教科等の学習につなげるように授業や
環境の工夫をしているんだね。



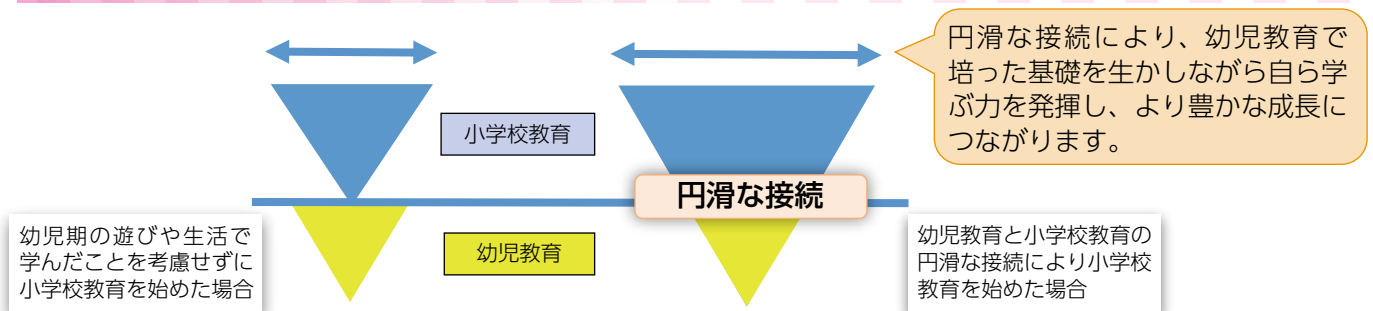
幼児期に育まれた資質・能力を小学校教育に生かす

自信や
意欲をもって
学ぶために

幼稚園・保育所における「遊びや生活の中の学び」と小学校における「各教科等から構成される時間割に基づく学習活動」には、方法や進め方に違いがあります。小学校では、入学当初の子どもが戸惑いや不安を感じ、学習や成長に支障をきたすことのないよう、幼児期の遊びや生活を通じた総合的な指導により育まれてきた資質・能力を基として、教育活動や環境を設定することで、子どもが自信や意欲をもって、主体的に自己を発揮しながら学びに向かえるように取組を進めていくことが重要です。



1年生はゼロからのスタートではありません



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は円滑な接続のきっかけ

子どもたちの姿から捉えよう！

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、子どもに資質・能力が育まれていく過程で見られる具体的な姿を示したものです。教員・保育士が、一人一人の子どもの姿から学びや生活の質を捉え、資質・能力がどのように育ってきているかを見出し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて援助する際のきっかけになります。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

- これらの姿は、到達目標ではなく、向かっていく方向性を示しています。
- ひとつの項目を取り出して指導、評価するものではありません。
- 全ての子どもに同じように見られるものではありません。
- それぞれの時期の遊びや育ちにより見られる姿です。



幼稚園・保育所では、教員や保育者が指導を行う際に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮し、小学校では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫をすることが円滑な接続に大切です。

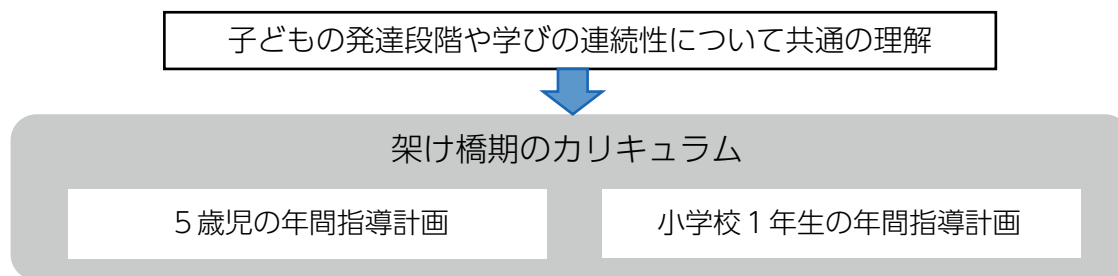
架け橋期の教育の充実に向けて

区の架け橋期の
カリキュラムの
取組

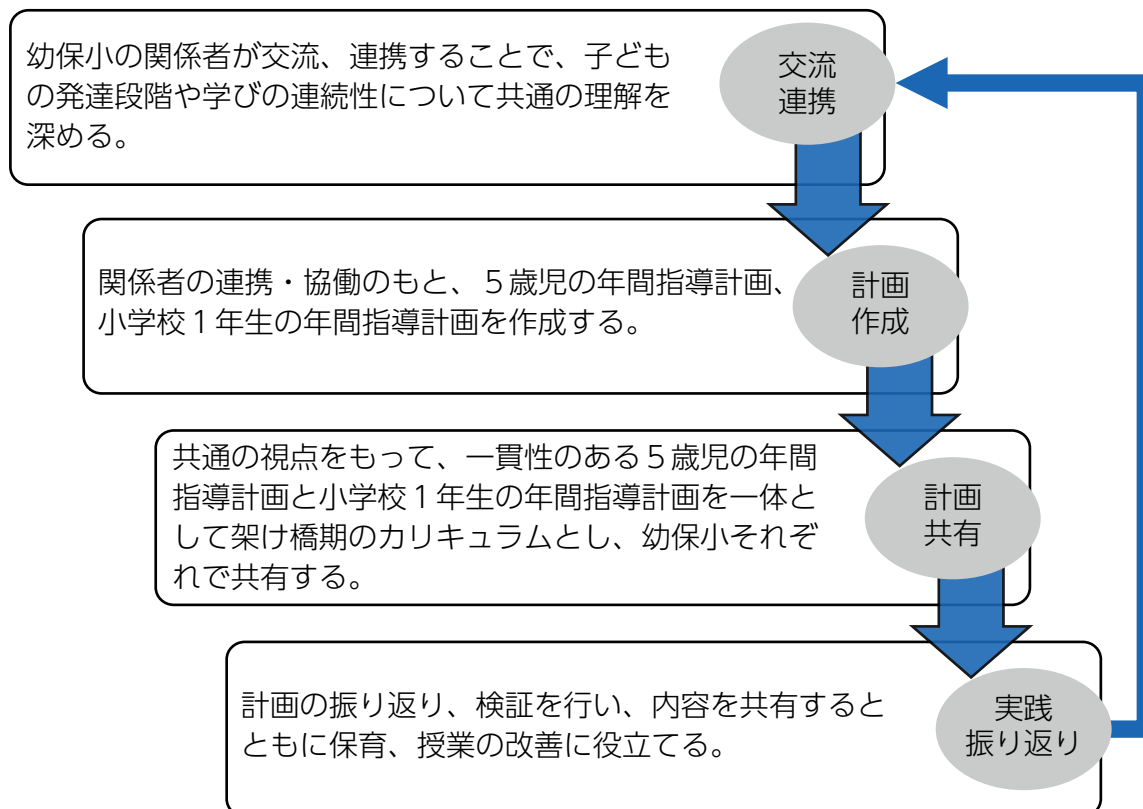
「架け橋期のカリキュラム」は幼児教育と小学校教育の連続性の理解から始め、それぞれの教育内容の充実、発展に向けて、毎年、振り返り、検証を行うことが大切です。

【区の架け橋期のカリキュラムの考え方】

関係者の連携・協働のもと、共通の視点（「育成を目指す（育みたい）資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」）をもって作成している、5歳児の年間指導計画と小学校1年生の年間指導計画を一体として、一貫性のある「架け橋期のカリキュラム」とするものです。



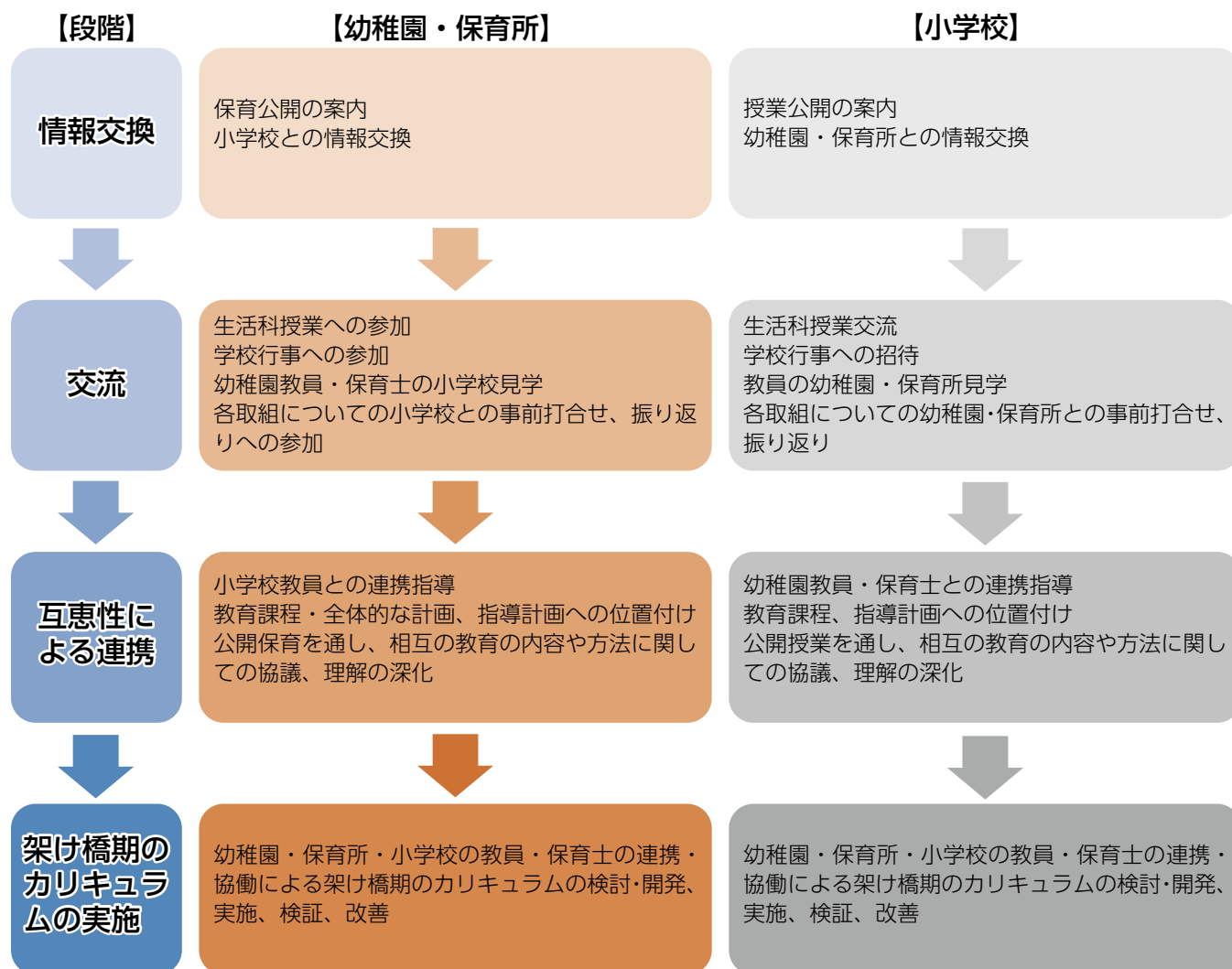
【架け橋期のカリキュラム作成・活用のステップ】



幼保小連携・接続の取組を進めるために

段階表で確認して
みましょう！

現在の幼保小連携・接続の取組はどこまで進んでいますか。
次の段階表を確認して、連携・協働を進めましょう。



※「練馬区幼保小連携推進方針」P9参照

※「幼稚園」の表記は、区立私立幼稚園、練馬こども園、認定こども園（幼稚園型）が含まれます。

第 2 章

架け橋期の子どもの姿と指導のポイント

第2章では、5歳児から小学校1年生のそれぞれの時期における「ねらい」、「育成を目指す（育みたい）資質・能力」、「指導の重点」、「家庭との連携」、「多様な育ちへの配慮」を項目ごとにまとめました。見開き頁にまとめて記載してあることで、幼稚園・保育所では、現在の子どもの姿から小学校の学習活動を通して成長していく子どもの姿等が分かります。小学校では、幼稚園・保育所において、子どもたちが遊びや生活を通してどのように学び育てきたかを理解する手助けになります。

【例 5歳児】

【ねらい】

各時期のねらいを記載しました。
ここに記載している時期は目安であり、一人一人の発達や学びの状況には個人差があることに留意して、子どもの発達や学びの状況に即した適切な指導が大切です。

【「幼児教育（または小学校教育）において育みたい（育成を目指す）資質・能力」】

子どもの姿を三つの柱ごとに整理しました。
5歳児は、関連する5領域を表示しています。

進級の喜びを感じ力を発揮しようとする時期	
4~5月	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に主体的に関わり、関心をもった様々な遊びに取り組む 自分なりに関心をもったことや友達や保育者との関わりをきっかけに、クラスのつながりを感じる 進級の喜びを感じ、年長児としての生活に意欲的に取り組もうとする
知識および技能の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 様々な素材や仕組みなどの面白さを感じる 新しい用具や教材と出会い、扱い方を知る 様々な体の動きや身のこなしを楽しみ、自分なりにやってみる 新しい環境に関わりながら、安全な使い方など必要なことに気付く
思考力、判断力、表現力の基盤	<ul style="list-style-type: none"> イメージやめあてに向かって、材料や用具を選び、実現しようとする 様々な素材の感触を楽しんだり、その特性に気付いて試したりする 思いや考えを、自分なりに相手に伝えようとする 言葉などで表現したことが、友達や先生に伝わる喜びを味わう
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもったことや不思議に思ったことに関わり、知ろうとする 新しい環境や年少の幼児に関わる中で、年長児としての喜びや自覚をもつ 友達と取り組む遊びや活動の楽しさを感じ、一緒に進めようとする
指導の重点	<ul style="list-style-type: none"> 進級の喜びに共感したり、新しい環境に戸惑う姿を受け止めたりしながら、それぞれが、安心して新しい生活に取り組めるようにする 使い慣れた道具や用具を準備し、主体的に環境に関われるようにする
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 進級による喜びや不安など保護者の思いに共感し、園での幼児の様子を具体的に伝えながら、一緒に幼児の成長を支えようとする 年間園生活の流れや内容、幼児の育ちを具体的に伝え、年長の1年間や就学に向けての見通しをもてるようにする
多様な育ちへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援が必要な幼児について、昨年度までの状況や今後の方向について園内で共通理解を図り、個別指導計画等を作成する 新しい環境にそれぞれのペースで慣れていけるように、個々の興味、関心を生かした環境構成や支援を工夫する

【指導の重点】

架け橋期の指導の重点は、幼児期から小学校就学以降の育ちの連続性を意識して指導を行う参考になります。

【家庭との連携】

【多様な育ちへの配慮】

本区の教育施策の重点でもある「家庭との連携」「多様な育ちへの配慮」に視点をあて、架け橋期の教育におけるポイントを記載しました。

架け橋期の子どもの姿と指導のポイント

	5 歳児				小学校 1 年生			
	進級の喜びを感じ力を発揮しようとする時期	自身の力を発揮し互いのよさを受け入れ合う時期	友達と力を合わせて生活や遊びを進めていく時期	自身の成長を感じ就学への期待をもつ時期	新しい場所での生活に不安と期待をもって新しい生活をスタートする時期	経験や体験をもとに、より主体的・自覚的な学びに向かう時期		
	4～5 月	6～9 月	10～12 月	1～3 月	4 月～5 月上旬	～7 月	～3 月	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に主体的に関わり、関心をもった様々な遊びに取り組み 自分なりに関心をもったことや友達や保育者との関わりをきっかけに、クラスのつながりを感じる 進級の喜びを感じ、年長児としての生活に意欲的に取り組もうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりに目的をもって、考えたり、工夫したり、試したりしながら取り組む楽しさを感じる 友達とのつながりを感じ、思いを伝えながら遊びを進める 年長児としての生活の仕方が分かり、自分たちで必要なことを進めようとする 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に向かって取り組み、力を発揮する喜びや満足感を味わう クラスやグループで共通の目的に向かって遊びや生活を進めようとし、力を発揮する喜びを感じる 自分たちで生活に必要なことに気付いたり、考えたりして、一緒に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの目的や課題をもって、試したり、工夫したりしながら達成する喜びを味わう 友達と共通の目的に向かって取り組む中で、互いのよさや持ち味を受け入れ合う 卒園や就学を意識しながら、クラスのつながりを感じ、自分たちで生活を進めていこうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校への期待をもって登校し、話を聞いたり見たりしながら安心して過ごす 先生や友達の顔や名前を憶えて身近な人と楽しく関わろうとする 学校生活に必要なきまりや約束を少しずつ覚えながら、小学校生活を安心して過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の仕方や授業のリズムが分かり、進んで学習に取り組もうとする 先生や友達、上級生の顔や名前を数多く憶えて、自分から関わろうとする 学校生活に必要な手順やきまり、約束を確認しながら、小学校生活を楽しく過ごす 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の流れ、規律が分かり、自分の考えをもちながら主体的に取り組もうとする 先生や友達、上級生と、適切に関わる→（1 年生後半）感謝をもって関わろうとする 学校生活の約束を守り、友達と関わり合いながら楽しく過ごす 	
知識および技能の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 様々な素材や仕組みなどの面白さを感じる 新しい用具や教材と出会い、扱い方を知る 様々な体の動きや身のこなしを楽しみ、自分なりにやってみる 新しい環境に関わりながら、安全な使い方など必要なことに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な素材や材料の使い方が分かり、遊びに取り入れる 水遊びや泥、絵の具など、季節ならではの素材に繰り返し取り組み、その特性を味わう 汗を拭く、水遊びなどで着替えるなど、状況に応じた行動に気付き取り組む 大まかな 1 日の生活の流れを意識しながら自分たちで使った場や遊具を片付け、整える 	<ul style="list-style-type: none"> 用途に応じてものを選択したり、素材の特性を生かして扱おうとしたりする 遊びや生活の中で、文字や数字、図形や標識などに関心を持ち、自分なりに扱おうとする 様々な運動遊びを楽しみ、競い合う面白さを味わう 園生活や遊びの中で、必要なルールやきまりがあることに気付く 園外保育や地域に出かける機会を通して、交通ルールや公共のマナーを知る 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経験を思い返して、自分たちでものや場、用具や方法などを選んだり取り入れたりする 状況や場面、相手に応じた言葉を使おうとする 多様な体の動きに取り組み、挑戦する 活動に合わせてルールを考えたり変更したりしながら、自分たちで遊びを進める 園生活の中で、今は何をすべきかを自分なりに分かり、状況に応じた行動をとる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習や学習対象（文字や数字）に関心を持ち、楽しく学習に取り組む また、そこで喜び、考え、気付いたことを、友達や先生に伝えるように表現する。表現する楽しさを味わう。 学校生活や学習に用いる言葉を知り、使おうとする 正しく鉛筆を持ち、文字や数字の読み書きをする 	<ul style="list-style-type: none"> 入学前の経験と比べたり、教えられたことと合わせて考えたり確認したりしながら、楽しく学習に取り組む 身近な環境や学習対象、先生や友達と積極的に関わり合い、知っている文字や言葉を使って、関心をもったことや気付いたことを場面にに応じて楽しく伝え合う 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝えたり、友達の考えを受け止めたりして、よりよい学びにつなげる 様々な手法、技法を学んだり、友達と見合ったりして、自分で選んで表現する（文字、絵、歌、動作など） 	
想像力、判断力、表現等の基礎	<ul style="list-style-type: none"> イメージやめあてに向かって、材料や用具を選び、実現しようとする 様々な素材の感触を楽しんだり、その特性に気付いて試したりする 思いや考えを、自分なりに相手に伝えようとする 言葉などで表現したことが、友達や先生に伝わる喜びを味わう 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なできごとや自然現象などに興味をもち、考えたり、調べたり、確かめたりする 様々な素材を組み合わせ、自分たちで工夫して扱う楽しさを味わう クラスの友達と歌や手遊び、ダンスなどを通して、声や動きが合う心地よさや喜びを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージや考えを、材料や方法を選び工夫して表現する 遊びに必要なものの数や量、場やその広さ、人数など、自分たちなりに考えて進めようとする 経験したことや感じたこと、考えたことなどを、体の動きや音、リズムや造形などの様々な方法で表現することを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 疑問に思ったことや予想したことを友達と試したり、さらに自分なりに考えたり調べたりする 続き話や物語の読み聞かせなどを通して、想像する楽しさをクラスの友達と共有する 友達との関わりの中で、自分の思ったことを相手が分かるように伝えたり、相手の思いを受け入れようとしたりする 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活でのきまりを知り、守る よりよい学級づくりのためにめあてを考える 良いことや悪いことが分かり、正しい行動に移そうとする 友達が嫌がることなど、してはいけないことはしないようにする 幼児期に育まれた文字や数、自然や社会生活への興味、関心を生かし、自分の体験と結び付けて感じ、想像したことを友達と伝え合う 	<ul style="list-style-type: none"> 善悪の判断がつき、自分の気持ちを調整したり、振り返ったりする 様々な人と関わり、めあてに向けて、協力し合う 当番や班での活動などで自分の役割が分かり、判断し、行動する 身近なことや経験したことを順序だてて考え、内容のまとまりがわかるように書く工夫をする 動物・植物などに関わることで、命を感じ取り、その大切さに気付き、生活に生かそうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 正しく判断し、行動に結び付けたり、振り返ったことを次に生かしたりする 自分の役割を理解し、進んで行動に移し、新たな活動につなげることができる 新しく学ぶ漢字や表現方法を使い、気付きや自己の考えを表現する 	
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもったことや不思議に思ったことに関わり、知ろうとする 新しい環境や年少の幼児に関わる中で、年長児としての喜びや自覚をもつ 友達と取り組む遊びや活動の楽しさを感じ、一緒に進めようとする 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と遊びを進めていく中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じる 自分の思いや考えを表し、それが相手に受け止められる喜びを感じる 自分とは違う考えや思いがあることに気付き、受け入れようとする 当番活動や片付けなど数人の友達と一緒に、役割を分担して取り組む方法を知り、やってみようとする 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な運動遊びなどの中で自分の力を発揮する喜びやチームの連帯感を味わう 友達とイメージや目的を共有し、一緒に遊びを進めていく楽しさややり遂げた満足感を味わう 自分の考えや思いを相手に話し、相手の反応や応答を受け止めようとする クラスの友達と共通の目的に向けて力を発揮し、気持ちを合わせる喜びやつながりを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と共通の目的に向かって考えを出し合うことで、遊びがより面白くなったり、課題を乗り越えたりする喜びを味わう 園生活に見通しをもち、自信をもって取り組む 卒園に向けての振り返りなどを通して、経験したことや感じたことなどを伝え合い、共感する喜びを味わう 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことは自分で行おうとする（登下校、学習の準備、着替え、食事） 学校の生活時程に慣れようとする（学習、休み時間、給食、行事等） 卒園と仲良く関わり合う 小学校生活や学習への興味、関心を広げ、探究しようとする 	<ul style="list-style-type: none"> 時間を意識しながら、自分のことは自分で行い、困ったときには大人に相談する 友達と共に活動したり、助け合ったりする 先生や友達の提案したことにも興味をもって最後まで取り組もうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 活動に粘り強く取り組み最後までやり遂げる 見通しをもって準備をしたり、管理をしたりすることができる 相手の気持ちを聞き、適切な行動をする 集団のルールを理解し、安全面を配慮した行動ができる 	
指導の重点	<ul style="list-style-type: none"> 進級の喜びに共感したり、新しい環境に戸惑う姿を受け止めたりしながら、それぞれが、安心して新しい生活に取り組めるようにする 使い慣れた遊具や用具を準備し、主体的に環境に関われるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 意見がぶつかったり、葛藤を感じたりする場面を通して、相手の思いに気付けるように、それぞれの感情を受け止め、支えていく 水遊びやプールなど季節ならではの遊びを十分に楽しめるように、安全に配慮した環境設定や保育者間の連携を図る 	<ul style="list-style-type: none"> クラスやグループで力を合わせたり、競い合ったりする経験の中で、様々な感情に寄り添いながら、個々に力を発揮できるように支えていく 1 日や週など大まかな見通しをもてるように、カレンダーなどで分かりやすく伝える 	<ul style="list-style-type: none"> クラスやグループの中で、一人一人が十分に力を発揮し、協同して進められるような機会をつくり、つながりを深めていく 小学校との交流活動など、就学に向けて安心感や期待をもてるような機会をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期の経験を生かしながら、慣れ親しんだ遊びや活動を行い、児童が前向きに 1 日を過ごせるよう、1 日の流れや過予定を計画する 児童の発達や学びには個人差があることを踏まえ、安心して発言したり、挑戦したりして失敗できる環境を整える 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で見つけた疑問を解決したり、児童のつばやきを大切にしながら、児童の学び意欲を高めよう、1 日の流れや過予定を計画する 児童の発達や学びには個人差があることを踏まえ、安心して発言したり、挑戦したりして失敗できる環境を整える 	<ul style="list-style-type: none"> 集団生活を通して、学校の公共性に目を向け、学校の施設はみんなのものであることや、みんなで快適な学校生活を送るためのきまりやマナーがあることに気付かせる 具体的な活動や体験を通して、児童が自分で発見したり、疑問に思ったことを、近くの友達や先生に伝えたり、表現したりして、他教科の学習につなげていく 	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 進級による喜びや不安など保護者の思いに共感し、園での幼児の様子を具体的に伝えながら、一緒に幼児の成長を支えていくという姿勢を示す 1 年間の園生活の流れや内容、幼児の育ちを具体的に伝え、年長の 1 年間や就学に向けての見通しをもてるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 園での具体的な姿を伝えたり、家庭での様子を聞いたりして、共に幼児の成長を温かく見守っていきけるよう細やかに情報共有する 友達との関わりの中で経験していることやその中で育まれる内容について理解し合えるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の取組では、一人一人の園での姿を丁寧に伝え、幼児の成長を認めてもらえるようにする 就学に向けての保護者の不安や心配を受け止めつつ、幼児が就学への期待をもてるような家庭での対応を具体的に依頼する 	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談などの機会に、それぞれの成長や課題について話し合い、就学に向けて保護者と共通認識をもつ 近隣の校長先生の講話を聞く機会をつくるなど、保護者の就学に向けての不安や疑問を解消できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校生活が「ゼロ」から始まるのではないことや、徐々に慣れていこうなスタートカリキュラムを組んでいることを保護者や学年だよりなどで伝え、保護者の不安や疑問を解消できるように努める 学校の生活リズムに慣れることや学習準備についての協力を依頼する 	<ul style="list-style-type: none"> 学校での様子を保護者に知らせるとともに、家庭訪問や学年だよりなどを活用して、児童が学校生活へ概ね馴染んでいるのか、機会を捉えて、家庭での様子を尋ねる 保護者会、個人面談を設定し、学校生活の様子を伝え、よさや課題について共通理解をする 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会、個人面談を年数回設定し、よさや課題についての進捗状況を確認する 日々の家庭学習を活用し、子どもの学習状況を把握してもらったり、親の家庭での様子を把握したりする（連絡帳、音読カード、漢字学習、プリント、テスト類など） 保護者向け情報伝達サービスを活用し、全体周知や個人連絡を行う 	
多様な育ちへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援が必要な幼児について、昨年度までの状況や今後の方向について園内で共通理解を図り、個別指導計画等を作成する 新しい環境にそれぞれのペースで慣れていけるように、個々の興味、関心を生かした環境構成や支援を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の特性を見極め、クラスの一人一人として受け止め合えるような支援を工夫する 療育機関の訪問支援や、就学相談、特別支援学級の学校見学など必要に応じて関係諸機関や家庭との連携、情報共有を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 行事に向けての個別支援の方向や具体的な内容を園全体で共有する 就学相談や就学时健診での情報を共有しながら、保護者の意向を聞き取り、必要に応じて就学支援シートの準備を進める 	<ul style="list-style-type: none"> 園生活を十分に楽しみ、それぞれが満足感をもって卒園できるように、成長や変容を具体的に伝え認めていく 就学に向けて幼児や保護者の不安に寄り添い、期待を高められるよう、就学支援シートや各学校との交流・連絡会などによる連携を密に行う 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援が必要な児童については、新しい環境に適応できるよう、教室環境の整備や児童や保護者が相談しやすい体制を工夫する 児童の実態を把握する際は、園との引き継ぎに加えて、発達の程度、適応の状況、各教科等の学習状況等を踏まえ、必要に応じて、校内委員会を設定し、学校全体で該当児童の教育的ニーズを共通理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の教育的ニーズの変化に応じた適切な教育を行うために、保護者との個別相談を継続的に実施し、共感的理解に努める 特別支援コーディネーターを中心に支援や指導の方向性を共通理解し、記録を積み重ねる 複数の立場から児童のアセスメントを行い、必要に応じて、個別指導計画および学校生活支援シートを作成し、スクールカウンセラーおよび教育相談等の関係機関につなげる 		

第 3 章

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から見る実践例

第3章では、練馬区内の幼稚園、保育所、小学校の実践例をまとめました。

子どもたちの遊びや活動の様子、環境構成の工夫を写真で紹介し、遊びや学習活動から読み取れる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を記載しています。

教員・保育士と子どもとの関わりや環境の構成の工夫、架け橋期の指導・援助のポイント等、それぞれの幼稚園・保育所・小学校の教育活動の実情に合わせて、ご活用ください。

「幼児期の終わりまでに育って ほしい姿」から見る実践例

5歳児			
進級の喜びを感じ力を発揮しようとする時期	自身の力を発揮し互いのよさを受け入れ合う時期	友達と力を合わせて生活や遊びを進めていく時期	自身の成長を感じ就学への期待をもつ時期
4~5月	6~9月	10~12月	1~3月

小学校1年生		
新しい場所での生活に不安と期待をもって新しい生活をスタートする時期	経験や体験をもとに、より主体的・自覚的な学びに向かう時期	
4~5月上旬	~7月	~3月

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

【自分たちのこいのぼりがつくりたい!】 P16



【お米をつくってみよう】 P18



【こどもかい】 P23



【みんなの運動会】 P21



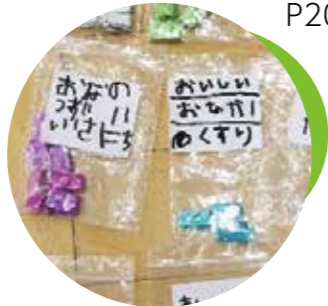
【美容室ごっこ】 P19



【遊園地ごっこ】 P17



【本物みたいにしようよ】 P20



【氷をつくろう!】 P22



【わくわくどきどきしょうがっこう】 P24



【なかよくなるうね 小さなともだち】 P26



【きせつと なかよし はる なつ あき ふゆ】 P25



【給食は自分たちで】 P27



自分たちのこいのぼりがつくりたい！

【遊びから学びが広がる様子】

昨年、年長クラスの幼児たちがこいのぼりを揚げているのを見ていて、今年は自分たちがこいのぼりを揚げることができると、楽しみにしていた。こいのぼりを揚げる役割を任せられる中で、「自分たちのこいのぼりがつくりたい！」という声上がり、こいのぼり制作につながった。グループごとに意見を出し合い、工夫して制作し、こいのぼりができ上がった。

言葉による伝え合い

自分たちがこいのぼりを揚げる喜びや感動への共感



うろこは何を使ってつくる？



自立心

やったー！
あがった。

必要な材料や素材を
選ぶような環境の設定

豊かな感性と表現

A児：どうやって貼ろう？
B児：ちょっと伸ばすと
上手く付くよ。

協同性



友達が休みでも、できる
ところは一人でやるよ。

思考力の芽生え

足りないから
もう少しつくるよ。

数量や図形、標識や 文字などへの関心・感覚

みんなに見せたい！
じゃ、廊下がいいね。

充実感や満足感を味わえる
ような展示の環境



架け橋期の援助のポイント

- 園庭にこいのぼりを揚げる時に、実際に触れたり、昨年の年長児の制作を思い出したりしながら、自分の考えを出し合い、友達同士で共通のイメージをもって制作に取り組めるようにする。
- 制作に必要な様々な種類の素材や材料、道具などを用意し、使いやすい場所に設定することで、幼児たちが、自由に触ったり試したりしながら、自分たちで考え、選ぶようにする。
- 予め完成日を決めておき、見通しをもって主体的に制作が進められるようにする。
- 幼児の思いを実現できるようにし、活動に満足感や達成感をもって、次への意欲につながるようにする。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 協同性
友達と共通のイメージをもって、考えたり、工夫したり、協力したりして取り組み、やり遂げたことに対する充実感・達成感を味わう。
- 豊かな感性と表現
様々な素材を使い、考えたことや感じたことを自分なりに表現したり、友達と共に表現したりする過程を楽しむ。

遊園地ごっこ

【遊びから学びが広がる様子】

近所にできた遊園地への興味が幼児たちの中で高まっていた。「行ったことあるよ」、「ポテトを売っているよ」という声から、紙で食べ物をつくり、レストランごっこが始まった。「乗り物もつくってみたい」という幼児たちは、保育者と相談しながら、段ボールの船、平テープの雨のカーテンやチケットカウンター、看板などをつくった。遊園地ごっこでは、案内係、船を動かす人、お客さんなどの役割を交代しながら楽しんだ。「もっとお客さんに来てほしい」という思いがわき、年少クラスの幼児を招待して、楽しませることに嬉しさを感じていた。

ここがグラグラだから一緒に直そうか。



乗り物



豊かな感性と表現

雨の下をくぐりますよ！

1500円です。お釣りをどうぞ。



チケット売場

出発します。おつかまりください！

幼児の伝え合いやイメージの共有を促す保育者の関わり

協同性



遊園地にご招待

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

他クラスの幼児を招待するなど、遊びが深まるための園内の連携

A児：先生も乗ってください！
B児：重たいからみんなで押すよ！
C児：そっちから引っ張ってみて。
D児：せーの！

架け橋期の援助のポイント

- 保育者も仲間になって一緒に楽しんだり、他クラスを招待する機会を設けたりすることで、イメージや目的を共有し、必要感をもって役割分担をしたり、役になりきる経験を重ねられるようにする。
- イメージを実現できるように、段ボールや支柱など様々な素材を用意する。チケットづくりなどを通して、数字や文字などに関心をもてるように、保育者が見本を示したり、幼児同士の教え合いを促したりする。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 豊かな感性と表現
自分の生活の中で経験したできごとを遊びで表現し、楽しさを共有しようとする。
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
遊びの中で「□□円です」、「△△分待ちです」など生活に即した数字や文字などを扱う。
- 協同性
共通のイメージから役割を考えて分担する中で、得意なことを発揮し合う。

お米をつくってみよう

【遊びから学びが広がる様子】

先生から聞いた田んぼの話に興味をもち、6月に植えた苗の世話を友達と協力して行ってきた。稲が育ち、以前につくったおにぎりのごはんの匂いや重みを思い出しながら、脱穀、精米を行うと、お米の数を数えたり、色や形を比べたり、匂いを嗅いだり、色々な感覚を使って関わっていた。幼児は、自分が試したこと、発見したことや感じたことを言葉で表現したり、友達と共有しながら共感をしていた。

自然との関わり・ 生命尊重

水の中の土にそっと
入れるんだね。

じっくりと関わり、発見や感動を
味わえる時間と場の保障



お米はやわらかいかな？
かたいかな？

社会生活との関わり



お米

何色？



1,2,3...

色々な形が
あるね。



皮がなかなか
むけなくて
むずかしい...

言葉による伝え合い



お米のにおい、
いいにおい。

数量や図形、標識や 文字などへの関心・感覚

個々の気づきを受け止め、
共有できるような橋渡し

架け橋期の援助のポイント

- 身近な植物を育てる中で気付いたことを言葉にして伝える姿を認め、今後の生長に期待をもてるようにする。
- 育て、収穫し、米になるまでの過程で、自分なりに考えたり、工夫したりできるようにじっくりと関わる時間と場を保障する。
- 興味をもったことを自分たちで調べられるように絵本や図鑑などの環境を用意する。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 自然との関わり・生命尊重
動植物との関わりを積み重ねる中で、大切にしている気持ちをもつ。
- 言葉による伝え合い
友達に自分が出会った面白さや発見を言葉で伝えたり、友達の話や思いを聞いたり、伝え合いを楽しんだりする。
- 社会生活との関わり
相手のことを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、社会とのつながりを意識するようになる。

美容室ごっこ

【遊びから学びが広がる様子】

小型のトングを手に持ち、友達の髪をカットするまねをするA児。トングの先にB児の髪の毛を挟み、A児「ハサミの音に似ているね」、B児「本物みたい」。ここから美容室ごっこが始まった。「化粧（メイク道具）もつくろう」、「鏡が欲しい」、「爪にもつけよう（ネイル）」などと言い、次々と美容室に必要な物を考えてつくってくる。看板もつくり、入り口のドアに設置。お客さん役の人が来ると美容師役の幼児がシャンプーやカット、メイクをして楽しんだ。

言葉による伝え合い

協同性

豊かな感性と表現

ドライヤー

メイク道具

思考力の芽生え

社会生活との関わり

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

イメージを広げたり深めたりする提案や材料・道具の設定

看板

架け橋期の援助のポイント

- 幼児がイメージを実現できるように、空き箱などの素材や道具を自由に選べるように配置する。
- 遊びが広がるように、幼児同士でアイデアを伝え合う姿を認める言葉かけをしたり、会話の橋渡し役をしたりする。
- 幼児同士の言葉でのやりとりを見守り、幼児が主体的に遊びを進められるようにする。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 言葉による伝え合い
相手の考えを受け取りながら、自分の考えを伝える。
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
絵や図、言葉や文字で自分の思いや感じたことを表現する。
- 思考力の芽生え
友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりする。

本物みたいにしようよ

【遊びから学びが広がる様子】

ホールの積木で遊び場をつくっていた幼児たち。他の幼児が宝づくりのために使っていたホイル折り紙を丸めて「薬ってことね」と言っている。保育者が「これじゃ大きくて喉に詰まっちゃいそう」と言いながら小さく折りたたんで見せると、「これはお腹が痛いときに飲む薬なの」となどと会話を楽しみながら丁寧に作り直していった。「薬を入れる袋があるといいね」と保育者がチャック付きポリ袋とラベルシールを用意すると「本物みたい!」と喜び、色ごとに分類したり、「これは何の薬ってことにする?」と話したりしながら、薬をつくったり、ラベルの文字を書いたりすることを楽しんだ。

言葉による伝え合い



「な」って
どうやって
書くんだっけ?

イメージを実現する
喜びを味わえる素材



数量や図形、標識や
文字などへの関心・感覚

豊かな感性と表現



薬袋

社会生活との関わり

こっちが病院ってことね。
待ってる場所があるよ。

協同性



救急車

診察台

待合室

イメージを共有し、やりとりしながら遊びがさらに楽しくなるような環境

架け橋期の援助のポイント

- それぞれの幼児のイメージや思いを受け止めながら、「もっとこうしたい」という目的に向かって工夫する楽しさを味わえるように、材料や方法を選べる提示をする。
- より本物らしくしようと思いをめぐらせる中で、必要に応じて文字や数量、図形などを扱えるような環境を用意する。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 豊かな感性と表現
様々な素材に触れ工夫して扱いながら、自分のイメージを実現する楽しさを味わう。
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
文字や色、形などに関心を持ち、自分なりに扱おうとする。
- 協同性
友達と遊びを進めていく中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じる。

みんなの運動会

【遊びから学びが広がる様子】

「踊りの曲と振付」、「リレーの順番や作戦」を自分たちで考える秋の運動会。昨年の年長クラスを見て憧れていた活動に期待感が膨らむ一方、「難しそう」、「できるかな」と話す幼児もいる。段階を追って経験を積み重ねることで楽しさを味わい、友達や保育者と「ドキドキするね」と共感することで緊張感がほぐれていった。また「年少クラスの応援や合同の活動」、「競技紹介の言葉」など、運動面以外の活動にも取り組んだ。

言葉による伝え合い

協同性

運動会

健康な心と体

道徳性・規範意識の芽生え

踊りやリレーの話し合い



自立心

年少クラスの応援・合同の活動

自分たちなりに見通しをもって取り組めるような環境



司会の練習

架け橋期の援助のポイント

- 普段の遊びの中で、ポンポンを持って好きな曲で踊ったり、戸外遊びの一つとしてリレーを取り入れるなど環境を設定する。運動会後も取組を継続し、それぞれの達成感につながるようにする。
- リレーの順番は、付けはずし可能なボードを用いて、自分たちで意見を出し合って相談しながら進められる環境を整える。幼児の出した意見に共感したり保育者が仲立ちしたりすることで、互いの思いや考えを生かすよさに気付けるようにする。
- 年少クラスのために応援グッズをつくったり、当日の役割のための工夫をしたり、試してみたりする中で、責任感・達成感をもち、自信や次の活動への意欲につながるようにする。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 健康な心と体
踊ったり走ったりすることを楽しみながら全力で運動やそのための練習を工夫する中で、喜び、くやしさを、一体感など充実した経験をする。
- 道徳性・規範意識の芽生え
競争心の芽生えとともに、健全な社会生活の基礎となる相手を思いやり尊重する道徳観、ルールやマナーを守る規範意識、得意・不得意を補い合い助け合う社会性をもつ。
- 自立心
年少クラスの幼児を応援したり一緒に活動したりすることで、年長児としての自覚が育まれるとともにまた自分たちの力でやりとげる達成感が、自立心につながっていく。

氷をつくらう！

【遊びから学びが広がる様子】

1月下旬、寒い日が続く園庭の池に氷が張った。朝「氷ができてるよ！」という幼児の声に他の幼児たちが集まって来た。「こっちの池の方が薄い氷だ。何でだろう？」とつぶやく幼児もいる。年長クラスの幼児たちは、昨年度の年長クラスの様子を思い出し、様々な容器に水とハーブの葉っぱや実などを入れて氷づくりを始めた。「氷ができる場所はどこかな?」、「寒いところがいいんだよね」と置き場所も自分たちで考えていた。年長クラスの幼児がやっていることを年少クラスの幼児が関心をもって見ていた。

池に氷が
できてるよ！



自然との関わり・
生命尊重

どこに置いたら
氷ができるかな。



思考力の芽生え

看板をつけておこう！

自分なりにじっくりと
試せる場と時間、材料



私はこの葉っぱを
入れてみる！

言葉による伝え合い



きれいだね。
冷たい～！

感じたことや考えたことを受け止め
合える関係をつくるための橋渡し

架け橋期の援助のポイント

- 幼児が自分で選んだり、繰り返し試したりできるように、様々な素材や大きさ、形状の異なる容器を毎日同じ場所に設定し、じっくりと関わる時間を保障する。
- 幼児が感じたり気付いたりしたことを言葉で表現する姿を受け止め、共感する。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 自然との関わり・生命尊重
自然現象の不思議さや美しさを感じる。
- 思考力の芽生え
「どうしてかな」と考えたり、「こうしたらどうなるかな」と試したりする。
- 言葉による伝え合い
自分の考えたことを相手に伝えたり、相手の言葉や動きから思いを受け止めたりする。

こどもかい

【遊びから学びが広がる様子】

表現的な活動を発表する「こどもかい」に向けて、クラスでストーリーを考え、劇をつくっていった。役ごとの4～6人のグループでイメージを出し合い、保育者が援助をしながら、セリフや動き、身に着けるものなど劇に必要な物を考えた。それぞれのグループの取組がつながり、オリジナルの劇になった。

A児：忍者が出てくるのはどう？
B児：いいね。

ストーリーやセリフを考える



言葉による伝え合い

思考力の芽生え

劇の背景や身に着けるものなど必要なものを考えてくれるような環境

A児：大きな木ができたね。
B児：葉っぱらしくいっぱい描こう。

必要な物をつくる



協同性

A児：こんな動きがいいよ！
B児：忍法、消えるの術！

みんなで動き方を考える



A児：宝の鍵をどうぞ。
B児：ありがとう。

豊かな感性と表現

それぞれのイメージが活かされ、つながりを感じられるような援助



みんなで一つの劇をつくり上げる

架け橋期の援助のポイント

- 幼児の話し合いを見守りながら、必要に応じて言葉を補足したり、分かりやすい表現にしたりしながら、互いの思いやイメージがつながり実現する楽しさを味わえるようにする。
- 幼児のアイデアを取り入れながら、今までの遊びの経験を生かして取り組める方法や材料、用具などを提案して、幼児が主体的に進めていけるようにする。
- 各グループ活動の様子を伝え合う機会をつくり、互いのよさに気付いたり、刺激を受けたりしながら、みんなで一つのものをつくり上げるよさに気付けるようにする。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 協同性
クラスやグループの友達と共通の目的に向かって力を発揮する喜びを味わう。
- 言葉による伝え合い
考えたことを相手に分かるように話したり、相手の話を聞いて理解したり、取り入れたりする。
- 豊かな感性と表現力
役に合った話し方や動き方を工夫する。必要なものを身近な材料や用具を使ってつくる。

わくわくどきどき しょうがっこう (学校探検)

【活動のめあて】

- 学校の様子を知り、学校を支えている人と関わる活動を通して、楽しく安心して学校生活を送ることができるようにする。

【活動内容】

- はじめはクラス全員で校内巡りをしたり、行きたい場所に小グループで探検活動したりする。
- 探検を通して気付いたことや知りたいことを教職員や上級生に質問する。
- 見付けたことや気付いたことを楽しく伝え合う。



校長先生、こんにちは。
教えてください。

社会生活との関わり

ここは何の部屋かな。

協同性



みなさん
聞いてください。

言葉による伝え合い

架け橋期の指導のポイント

- やりたいことを見付ける、その実現のために人と関わるなど、児童が入学前に経験したことを引き出し、学校探検やそれを簡単に発表する様々な活動につなげ、意欲的に学習できるようにする。
- 児童の思いや願いを大切に、活動（学校探検、発表等）を繰り返し行う機会を設けることで、学校生活への関心や理解、安心感を高めるようにする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見える小学校での学習

- 社会生活との関わり
身近な人と触れ合い、人との様々な関わり方に気付き、学校に親しみをもつとともに校内を知ること、学校生活に必要な情報を取り入れ、学校を大切にする。
- 協同性
友達と思いや考えを共有し、共通の目的に向かって考えたり協力したりして、充実感をもってやり遂げる。
- 言葉による伝え合い
教職員や友達と関わる中で、豊かな言葉や表現を身に付け、言葉で伝える。話を聞いて言葉による伝え合いを楽しむことができる。

きせつと なかよし はる なつ あき ふゆ

【活動のめあて】

- それぞれの季節の自然を見つけたり、遊んだりする活動を通して、季節の違いや特徴を見つけ、季節の変化やそれらを利用した遊びの面白さに気付くことができるようにする。
- 季節の変化の気付きを自分の生活に取り入れ、暮らしを楽しく充実したものにできるようにする。

【活動内容】

- 季節の特徴をとらえ、その季節ならではの遊びを楽しむ。
 「春・夏」：花、虫、植物の様子 「夏」：水遊び、天気の特徴
 「秋」：植物の様子、木の実、落ち葉、季節の物を使ったおもちゃづくり
 「冬」：冬見付け、生きものの冬の過ごし方、北風、雪、氷で遊ぼう



自然との関わり・生命尊重

大きくてまんまるがつくれたよ。



この前より葉っぱの数が3枚も増えたよ。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚



言葉による伝え合い

こうやると、しゃぼん玉の赤ちゃんが生まれるんだよ。



架け橋期の指導のポイント

- 幼児期の経験や体験をもとに、比べたり、たとえたり、試したり、見通したりしながら、新たな遊びや活動につなげ、自分の生活に生かせるようにする。
- 身近な自然で繰り返し遊んだり、観察したりする活動を通し、それらの変化や特徴についての児童の気付きを生かす。
- 活動中の材料や活動の工夫、友達と協力したことなど、児童に気付かせたい点に沿って助言したり、称賛したりして、児童自身や友達のよさに気付くことができるようにする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見える小学校での学習

- 自然との関わり・生命尊重
 身近な自然に触れ、その変化や特徴に気付き、問いを抱き、答えを知りたいと思う経験を積む。
- 言葉による伝え合い
 栽培活動や季節に関する活動で気付いたことを、伝えたり、記録したり、聞いたりする。
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
 観察や体験を通し、それらを伝えたり記録したりする際、数量や図形、文字を活用し、分かりやすく伝えようとする。

小学校1年生 5月～（2年生以降も継続）

なかよくなろうね 小さなともだち

【活動のめあて】

- 学校で見つけた生き物たちを思い出し、身の回りには様々な生き物がいることに気付き、飼育への関心をもつことができるようにする。
- 動物を飼う活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができるようにする。
- 動物や虫などが生命をもっていることや成長していることに気付くと共に、生き物への親しみをもち、大切にしようという思いを表現したり、友達と伝え合ったりすることができるようにする。

【活動内容】

- 学校探検や公園で見つけた生き物を、自分たちで世話したり、飼うことができるか調べたり、聞いたり、準備したりして育てる。

写真にとって、みんなに教えよう！



社会生活との関わり



自然との関わり・
生命尊重



豊かな感性と表現

この子、とってもあたたかくて、ドキドキしてる。



トンボがとんで来たよ。秋だね。

架け橋期の指導のポイント

- 幼児期からの飼育経験や生き物への興味や関心を生かして、親しみをもち、責任をもって世話をしていくことを通して、動物や植物にも命があり、自分と同じように生きていることが分かり、命を大切にすることができるようにする。
- 幼児期の経験をもとに、生き物と触れ合うときに気を付けること（前後の手洗い、児童のアレルギー、安全管理、感染症予防など）を話し合い、安全に活動できるようにする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見える小学校での学習

- 自然との関わり・生命尊重
動物や身近な生き物の世話をすることを通して、それらの生活環境に興味や関心をもち、心を寄せ、よりよい成長を願って関わり合う。
- 豊かな感性と表現
児童の心が揺さぶられる場面に多く出会うことで、対象の立場にたつて思いや願いを膨らませる。
- 社会生活との関わり
動物などの飼育を通し、家族や専門家、詳しく知る人に質問したり、相談したりすることで得られた情報を活用しながら、活動を継続していく。

給食は自分たちで

【活動のめあて】

- 給食の準備から、片付けまでを協力して行う。
- 決められた時間内に自分の体に合った量の食事をする。
- 食事のマナーを知る。

【活動内容】

- 当番のやり方や給食のきまりを、給食班の仲間と確認し合ったり、助け合ったりしながら、当番活動を行う。
- 給食委員会の上級生の話や昼の放送から、栄養について知ったり献立の情報を聞いたりする。



気を付けて運ぼうね。
返すときもきちんと
整頓しよう。

健康な心と体

みんな同じ量にしよう。
お茶碗の位置は・・・。

言葉による伝え合い

協同性



自立心



当番表

架け橋期の指導のポイント

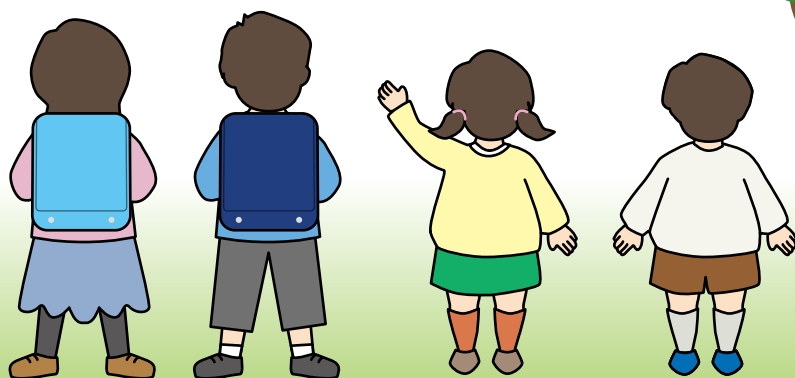
- 給食当番の仕方や役割など、視覚的に工夫した掲示をすることで、児童が主体的に活動できるようにする。
- 給食の楽しみや栄養の大切さについて、栄養士に話をしてもらい、給食への楽しみをもてるようにする。
- 当番活動を全員が経験するまで、校内の全職員が連携して、安全面や衛生面に留意しながら指導する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見える小学校での学習

- 自立心
決められた時間内に、自分の体に合った量の食事をする。
- 協同性
準備から片付けまで、グループで協力して行う。
- 健康な心と体
早寝早起き朝ご飯の習慣を身に付け、好き嫌いせず、給食時間を楽しむ。

MEMO

A large rectangular area with a decorative, scalloped border. Inside this area, there are 25 horizontal lines spaced evenly down the page, providing a template for writing a memo.



ねりま幼保小の架け橋期プログラム

令和6年（2024年）3月

発行 練馬区教育委員会事務局 教育振興部 教育施策課
住所 〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6-12-1
電話 03-3993-1111（代表）
FAX 03-5984-1221
練馬区ホームページ <https://www.city.nerima.tokyo.jp>